

論文内容の要旨

報告番号		氏名	根津智子
Health-related quality of life (HRQOL) decreases independently of chronic conditions and geriatric syndromes in older adults with diabetes: the Fujiwara-kyo study			
糖尿病罹患高齢者の健康関連 QOL は合併する慢性疾患や老年症候群と独立して低下している: 藤原京スタディ			

糖尿病患者の健康関連 QOL (HRQOL) に関する研究は多くみられるが、地域で自立して暮らす高齢者を対象とし、高齢者に特有な慢性疾患および老年症候群を調整して分析した研究は極めて乏しい。

本研究では、藤原京スタディ(高齢者の QOL と生活機能に関する大規模コホート研究)の参加者である地域在住の 65 歳以上の男女 3,946 人のベースライン健診結果を、横断的に分析した。問診と質問紙により糖尿病やその他の慢性疾患、老年症候群を把握し、血液検査や身体測定により各種検査値を得た。HRQOL の評価には包括的健康関連 QOL 評価尺度(SF-36)を用いた。

糖尿病と診断されておらず HbA1c<5.7%の 2,345 人を基準群とし、5.7%以上 6.5%未満の 1,029 人を高 HbA1c 群、糖尿病と診断されている(425 人)または HbA1c が 6.5%以上の 572 人を糖尿病群とした。SF-36 から得られる身体的側面(PCS)、精神的側面(MCS)、役割/社会的側面(RCS)の健康観を表す 3 種類の component summary の各得点の下位 25 パーセンタイルを低 QOL と定義し、基準群に対する高 HbA1c 群と糖尿病群のオッズ比を多重ロジスティック回帰分析で算出した。その結果、糖尿病群の調整オッズ比は PCS が 1.48 (95% CI 1.18-1.84)と有意に高く、MCS、RCS では有意な上昇はみられなかった。高 HbA1c 群では PCS、MCS、RCS いずれも有意なオッズ比の上昇はなかった。PCS 低下の機序として、先行研究から下肢筋力の低下や筋肉量の減少等が推測されるが、本研究では未検討の neuropathy の影響も考えられる。

糖尿病と診断されていた 425 人の血糖コントロール状況(HbA1c 7.0%未満群対 7.0%以上群)、治療方法(生活指導群対内服群、インスリン群)、罹病期間(10 年未満群対 10 年以上 20 年未満群、20 年以上群)の PCS の低下についても検討したが、いずれもオッズ比の有意な上昇はみられなかった。

本研究は、性・年齢に加え、糖尿病関連疾患(脳血管障害・心筋梗塞)、その他の疾患や状態(高血圧・肥満・睡眠障害・視覚障害・聴覚障害)、老年症候群(抑うつ状態・認知障害・尿失禁・転倒の既往)、心理社会的要因を調整したものであり、したがって、糖尿病群では高齢者に特有な心身要因とは独立して PCS の低下がみられることを明らかにしたものである。